

あんずだより

お客様専門
情報誌

<第17号>

東杏印刷は医療現場を支える皆様・患者様にとっての快適な医療空間づくりをお手伝いします

発行所



TOKYO PRINTING CO., LTD.
東杏印刷株式会社

〒178-0063
東京都練馬区東大泉2-11-4
TEL 03-3923-1101(代)
FAX 03-3923-1109

あんずだより編集部
http://www.tokyp.co.jp

スマートフォン専用



あんずだよりの
バックナンバーが
ご覧頂けます

集ム 特コ ラム

「紙の基礎知識」 私たちに身近な『紙』について考えよう!

東光紙商事株式会社 代表取締役 川口達也

今月号は2013年の第11号において「紙の基礎知識」〜私たちに身近な『紙』について考えよう〜と題して、我々印刷業界に必ずなくてはならない紙、さらにはご家庭や職場でも大変身近な紙、その種類や流通について、「コラム」を掲載させて頂きました。東光紙商事株式会社代表取締役川口達也氏の「紙の基礎知識 第二弾」をお届けいたします。今回は紙の規格や、紙の性質等について寄稿して頂きました。是非「一読ください」。

とても身近な存在である紙の規格や性質について考えよう

前回のコラムから大分間隔が空いてしまいましたので、要点だけ簡潔におさらいしましょう。

前回は紙の基礎知識として、紙の種類のお話をさせて頂きました。ポイントだけ整理してみよう。

①皆さまの身近にある紙は、製紙会社で生産された巨大な巻取紙から平判シートに仕上げ、更にご希望に応じて各々のサイズに仕上げられ、納品されたものです。

②紙の種類は大きく分けて、いわゆる印刷会社が使用する「印刷用紙」、ラッピングや、医療業界ではレントゲン袋等に使用される「包装用紙」、伝票の複写用紙などに使用される「情報用紙」、カード類や、出版物の表紙等に使用される厚紙「高板・特板紙」と言う4つに分

けられます。

以上が前回コラムのおさらいですが今回は紙の規格、性質等について説明したいと思っております。

まず紙の寸法についてですが、代表的な寸法はA判(625mm×880mm)、菊判(635mm×939mm)、B判(765mm×1085mm)、46判(788mm×1091mm)、ハトロン判(900mm×1200mm)等があります。

A3、A4等A判系にはA、菊判の紙を使用し、B4、B5等B判系にはB、46判の紙を使用します。ハトロン判は包装紙に使用する用紙に多く、包装紙、封筒等がハトロン判を使用します。

また、紙には流目があり、紙の長い寸法と平行に流れている(紙の抄く方向)のが縦目、短

い寸法と平行に流れているのが横目となります。紙の流目は非常に重要で、流目に沿って折り目を入れないと、製品が上手く仕上がりにません。規格で説明するとA3、B5等数字が奇数表示の製品は縦目、A4、B6等偶数表示の製品が横目を使用する事になります。もし機会があれば、身の回りにある紙を異なる2方向から破ってみて下さい。綺麗に破れる方が紙の目が流れている方向です。そして横目は縦目に比べ伸縮が大きく、湿度変化や力が増えられると、縦目方向にはあまり動きませんが、横目方向には大きく動きまわります。次に紙の主な品質特性について説明致します。

紙には白度度と言って白さの度合いを%で表す数値があります。この数値が高いほど紙が白く、上質紙の数値は80%以上となっております。数値の測定方法はある光量の光を紙の表面に当て、そこから反射する光の

反射率で表します。次に紙の透け具合の数値を表す不透明度があります。これは光が紙を通過しない程度を表した数値で、具体的には印刷物の上に用紙を一枚重ねた時に、下の図柄が透けて見えない程度を表し、数値が大きいほど透けて見えにくく、同じく%で表します。

不透明度が低いと印刷された文字や写真が裏から透けてしまうため、両面印刷される書籍等に使用する紙は、不透明度が高い事が要求されます。

皆様は身近にある紙に関して、また違った見方で接していただき、より身近に感じていただけます。以上紙をご使用いただければと思います。

紙の流れ目

(1) タテ目の紙

2判	縦目
4判	縦目
6判	縦目
7判	縦目

(2) ヨコ目の紙

2判	横目
4判	横目
6判	横目
7判	横目



川口達也氏 プロフィール

東光紙商事株式会社 代表取締役 川口達也
1965年9月8日生まれ。日本大学法学部政治経済学科卒業後、昭和63年服部紙商事株式会社入社。入社後8年間用紙の経験を積み平成7年に東光紙商事株式会社に入社。その後、常務を経て平成17年8月に代表取締役社長に就任。

ガラス面カラーシート



- ①カラーシートをグリーンからオレンジ系の「パンプキンイエロー」に張替え、外観に温かみを持たせました。
- ②シートを下まで大きくすることで、中の様子が見えにくくなり、患者さんのプライバシーを保護しました。
- ③日中カーテンを広げる必要がなくなり、院内に日が差し込み、明るくなりました。

診療時間案内板



- ①全体の配色を明るめに変更しました。
- ②診療時間などを図表化し、見やすくしました。
- ③透明アクリル板を重ねることで、汚れや老朽化への対策としています。

いつもあんずだよりをご覧になっていただきありがとうございます。今月号は「看板」について少しお話ししたいと思います。看板とは人目を引き、人を呼ぶものとの意味もあり、現代では目印や集客などになくてはならないもののひとつとされています。色を変えることで患者さんに与える印象は大きく変わり、最近では体や精神的に様々な影響をもたらすとも言われています。種類もシートで作成するものもあれば、白板、電飾系、LEDなどその数は数十種類に及びます。今回は看板によるイメージチェンジを図られた「富士見通り診療所」様を一例として紹介します。先様では「患者さんがより入りやすい空間にしたい」という要望から、開業して以来十六年に渡り慣れ親しんだ外観を一新されました。写真をご覧ください。



看板でイメージチェンジ

ご協力：富士見通り診療所 様 営業部課長 笠島 隆



看板のほとんどでアクリル板を使用するメリットとは軽くて丈夫、酸やアルカリに強く、それでいて安価で作成することが出来るという事です。

毎日目にするものだからこそ、少しの変化でも大きく変わることがあります。今回ご案内した看板はほんの一例です。変えたいと思っているけどコスト面やデザインでお困りな方は、デザイン・レイアウト制作も当社にて承ります。ぜひ一度ご相談ください。

